

### 子どもの虐待通報

#### わずかな兆候も見逃さず

**問** 明石こどもセンターへの通報状況とその対応について聞く。

**答** 今年4月に開設した明石こどもセンターへの通報は、2カ月間で約80件である。初期対応を専門とする緊急支援課において、ケースワークを行う児童福祉士をはじめ、弁護士職員、子どもや家庭に精神面から寄り添い支援する児童心理士、警察官のOB職員など、高度な知識や技術を持つ専門職員



明石こどもセンター(大久保町ゆりのき通)

で対応している。

通報による訪問等も不快に感じる保護者もいるが、全国で発生する痛ましい虐待事案を踏まえると、わずかな兆候も見逃さず支援につなぐことが、子ども

の命を守る児童相談所として最も重要な責務と考える。全ての子どもや警察、地域など、子どもを取り巻く関係者

#### いじめをなくそう

#### きめ細やかな対応

#### 啓発活動も実施

**問** いじめや虐待、職場や学校での嫌がらせ、クラブ活動等での体罰、パワハラなどを防止するための条例制定を急ぐべきと考えるが、市の見解を問う。

**答** 本市は高齢者、障害者、子どもの相談等に対して包括的な支援を行う、地域総合支援センターを設置すると

を毎年改めるなどの処遇改善策により、職員が意欲を持って働き続けられる環境整備を図るとともに、来年度は退職予定者を上回る正規保育教育職の募集を検討している。

### 保育所待機児童対策 保育士の確保目指し さらなる処遇改善を

**問** 保育所待機児童ゼロ対策として、保育士の確保や臨時保育士等の処遇改善策を聞く。

**答** 本市の待機児童は、昨年度に約2千人の受入枠を拡充したことにより8年ぶりに減少したが、4月現在では412人であり、さらなる



安心して働ける環境を

**問** 工場立地法では、工場敷地内の緑化を行い、地域の環境づくりに貢献することを基本としているが、この法規制が工場の建て替えなどに支障を来し、工場が市外に移転する現状がある。法改正により、地方公共団体が緑地面

### 工場立地法の緑地率緩和 良好な住環境を守るため 市の特性を見極め検討

**問** 工場立地法では、工場敷地内の緑化を行い、地域の環境づくりに貢献することを基本としているが、この法規制が工場の建て替えなどに支障を来し、工場が市外に移転する現状がある。法改正により、地方公共団体が緑地面

**答** 工場立地法の緑地面積率は、地域の実情に応じて市の条例で基準を緩和できる。これを利用して面積率を引き下げ、市内の工場が敷

### 本のまち明石を推進 西明石・大久保にも 新たに図書館を整備

**問** 本を明石のまちづくりの中心に位置付けるため、市は今後の展開として新たな図書館の整備を検討しているが、大久保や西明石方面に新設する考えはあるのか。また、既存の施設や民間活力も活用するなど、さまざまなアプローチで図書館を整備していくことが、本のまちあかしを推進することになるかと考える。今後、どのように取り組んでいくのかを聞く。

**答** 本市では「いつでも、どこでも、だれでも」手を伸ばせば本に手が届くまちづくりを進めるため、あかし市民図書館を明石駅前再開発ビルに移転し、施設を大幅に拡充した。現在、同ビル内の子ども関連施設などと連携しながら取り組みを行っている。



あかし市民図書館

今後、一層の環境整備に向けて、西明石や大久保を含め各地区における新たな図書館の整備について、基本構想の策定に向けた取り組みを進めていく。

### 永年在職表彰など受賞

6月11日の全国市議会議長会定期総会において、同会会長から表彰を受けました。これは、長年にわたる市政発展への貢献が認められたものです。

#### 議員在職20年以上特別表彰

- 出雲 晶三 議員
- 大西 洋紀 議員
- 北川 貴則 議員
- 井藤 圭滯 前議員

また、穂原成人議員に対し、議長在職中に全国市議会議長会地方財政委員会委員を務めた功績により同会会長から、また、議長、副議長の職を2年以上上務めた功績により兵庫県市議会議長会会長から、それぞれ感謝状が贈られました。

### 議員ふもやま話

今年もトライやるウィークが6月3日から7日までの5日間行われました。この事業が生まれた背景はいろいろあると思いますが、兵庫県では、阪神・淡路大震災および神戸市須磨区における小学生殺傷事件以来、教育の基調を「教える教育」から「育む教育」へと大きく転換しました。子どもたちの「心の教育」の充実を図るため、体験する場と機会を提供し、児童生徒一人一人が自分の生き方を見つけられるように支援することを目的に、平成10年度から兵庫県下の公立中学校2年生を対象に実施してきたということです。

人間関係やその他あらゆる事柄が、机上のことやバーチャルではなく「本物の体験」だからこそ、学校や家庭では味わえない臨場感や生きているという存在感、そして終了後には充実感が湧いてくるのでしょうか。